

教科	インテリア	科目名	工業技術基礎	単位数	3
学科	インテリア	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	工業技術基礎				
副教材など	産業財産権標準テキスト(特許編, 総合編)				

1. 科目の目的

工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、インテリアデザイン・ものづくり・知的財産における技術などへの興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させると共に、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てることを目的とします。

2. 授業の内容と進め方

年間計画に従って、3班編成(13～14人グループ)で、3テーマをローテーションで進めます。

3. 学習する上での留意点

事前に実習テーマについて説明し、関連科目と連携させながら学習します。また、「木材工芸」における刃物や木工機械の使用においては、特に安全教育・環境整備に最大の留意が必要となります。また、知的財産については、資料の提示を積極的に行い、興味関心を持たせる授業とします。

4. 課題等について

各工程ごとにレポートを提出します。作品製作において授業時間で不足する分は課題とし、各自の自主学習によって完成させ期日までに提出することとします。その際、実習室の使用を認め、刃物や木工機械の使用については職員が付いて指導します。欠席者については、放課後等を利用し欠席した実習項目について補講をします。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	作品製作等ものづくりや知財に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身につけているか。
思考・判断・表現	工業全般、特にインテリアに関する基礎的な知識をもとに、ものづくり・知財をする上で直面する諸問題について、その解決を目指して自ら思考を深め、判断できる力と創意工夫する能力を身につけているか。
技能	インテリアデザインに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、安全や環境に配慮し、適切な加工や処理を行うことができるか。
知識・理解	インテリアデザインに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、合理的な手順や工程を計画し、安全・適切に処理する方法、それらの意義や役割を理解し表現できるか。

6. 評価の方法

評価の観点に基づき、出席状況、レポートおよび、作品の提出状況・完成度および、自己評価を加味して総合的に判断し、評価します。

《指導計画》 科目名 工業技術基礎

1 学年

3 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	実習オリエンテーション	① 各実習の目的, 方法などについて, あらかじめ 十分理解する。 ② 実習に安全な服装, 整理整頓と危険防止に留意する。 ③ 積極的, 自主的に行動し, 共同作業はお互いによく協力するよう心がける。 ④ レポートおよび, 作品の提出は, 期限を厳守する。 インテリア材料で一番人にやさしい素材が木材である。木材の性質を知る早道は, 実際に自分の手で切ったり, 削ったりしてみることである。手工具及び木工機械を使って, 切断・切削する技術を習得し, 素材の木材からデザインされた家具に変身させる創造性と, ものづくりに取り組む態度を育成する。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	5	第1実習テーマ 「木材工芸」		
	6			
	7			
二 学 期	9	第2実習テーマ 「デザイン基礎」	工業人において, 特許というものは非常に大切である。各企業においても, 独自に特許の部署を持ち, 各製品を管理している。本実習では, 知的財産権の概要と仕組みを理解し, 特許出願書類の制作方法を習得する。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	10			
	11			
三 学 期	12	第3実習テーマ 「知的財産権」	工業人において, 特許というものは非常に大切である。各企業においても, 独自に特許の部署を持ち, 各製品を管理している。本実習では, 知的財産権の概要と仕組みを理解し, 特許出願書類の制作方法を習得する。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	1			
	2			
	3			